

事務事業名		広場整備事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	02 安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間	
	施策名	07 ともに支え合う地域づくりの推進			
	基本事業名	05 人にやさしいまちづくりの推進		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 28 年度～ 30 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令		都市計画法		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 08 05 05 01 事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)	
所属	部課名	災害復興局 被災跡地利用推進室		全体計画 (※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 118,196 一般財源 29,550 事業費計 (A) 147,746 人件費 正規職員従事人数 9 延べ業務時間 1,300 人件費計 (B) 5,200 トータルコスト(A)+(B) 152,946	
	課長名	佐々木 義久			
	係 名	電話	0192-27-3111		
	担当者	内線	337		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ①地域の交流や憩いの場を創出することでコミュニティの再生を図るための事業である。 ②地域と協働で策定する土地利用計画に広場整備を位置付け、復興交付金を財源として具現化を図る。 ③事業費は測量設計費と工事費用である。 ④現時点において、整備済の浦浜地区多目的広場に加え、細浦地区コミュニティ広場と綾里地区コミュニティ広場の実現に向けた取組を進めている。 ⑤整備後の広場は、公園を所管する住宅公園課に移管することとしている。					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動)		
前年度実績(前年度に行った主な活動)		
浦浜地区多目的広場の工事を進めた。		
細浦地区コミュニティ広場の測量設計を進めた。		
綾里地区コミュニティ広場の実現に向けた地域調整を進めた。		
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		
浦浜地区多目的広場の完成・共用。(4月完成→共用開始済)		
細浦地区コミュニティ広場の工事を実施予定。		
綾里地区コミュニティ広場の測量設計・工事を実施予定。		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		
被災跡地		
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		
復興交付金事業を活用し、広場を整備する。		
④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)		
被災跡地の有効活用につけ加える。		
⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
名称		単位
ア	広場整備事業計画数	件
イ		
ウ		
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		
名称		単位
カ	復興交付金申請事業数	件
キ	活用する被災跡地延べ面積	ha
ク		
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
名称		単位
サ	着手した広場整備事業数	件
シ	整備延べ面積	ha
ス		

(2) 総事業費・指標等の推移

		年度	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円		4,475	13,003	100,717		
		一般財源	千 円		1,120	3,251	25,181		
	事業費計 (A)		千 円		5,595	16,254	125,898	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人		3	3	3		
		延べ業務時間	時 間		1,000	1,000	1,000		
		人件費計 (B)	千 円		4,000	4,000	4,000	0	0
	トータルコスト(A)+(B)		千 円		9,598	106,951	129,898	0	0
⑤活動指標		ア	件		3	3	3		
		イ							
		ウ							
⑥対象指標		カ	件		2	3	3		
		キ	ha		0.5	0.7	0.7		
		ク							
⑦成果指標		サ	件		1	2	3		
		シ	ha		0.5	0.5	0.7		
		ス							

事務事業ID	1362	事務事業名	広場整備事業
--------	------	-------	--------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
被災跡地利用の取組として、地域と協働で土地利用計画を策定する中、当該地域の要望を受け、計画に位置づけることとなった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
復興交付金を活用した広場整備の条件として、維持管理経費は地域が負担することになっており、それらを前提とした地域協議を行ってきたことから、地域において自らの負担責務を自覚しつつある。(公共施設の維持管理は市が行って当然という意識から自分達が使う広場は自分達で管理するという意識へと変わってきている。)

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
コミュニティの再生に資する施設として期待されている。(単に地域の交流や憩いの場に留まらず、維持管理作業を通したコミュニティ活動の活発化や広場を活用した復興まちづくり事業の展開の兆しが見られる。)

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	各地域の意向を踏まえ、調整しながら整備を進めており、コミュニティの醸成や地域主体の管理体制の構築、さらなるまちづくり活動の展開につながっている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	市有地を含む被災跡地について、公益機能の提供とともに、地域主体の取組につなげる材料づくりなど、市が一定の利活用策を講じることは震災復興にあたり妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	防集移転元地の連担状況を踏まえた上で、整備箇所や使い方、管理方法などを地域と協働で検討・調整しながら進めている。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	策定した計画に基づき、復興庁など関係者と協議しながら、規模や内容を決めていく必要があり、これを超える整備は難しい。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	地域と協働による検討に基づき土地利用計画を策定し、それに基づく事業実施であることから、事業廃止、休止は相応の説明が必要となる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	復興交付金で整備する広場の水準自体が必要最小限の内容となっている。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	設計から外部委託しており、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	広場の整備箇所は防集移転元地を最大限に活用する観点から、その所在や連担状況を勘案せざるを得なく、その規模から想定される誘致距離においては多少の不公平感を生じるのはやむを得ない。なお、維持管理費用は地域が負担することとしている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果 左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止																							
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	地域住民の要望を踏まえ、被災跡地を有効に活用し、整備する施設の管理の方策について検討を深めながら、広場整備事業実施する必要がある。